

全ての争議を解決し
安全・安心の航空へ

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.1012 (35-33) 2021年4月5日



オリ・パラ組織委員会前宣伝行動

橋本聖子会長！しっかり指導して！ JALは「調達コード」違反！

緊急事態宣言解除後の3月25日、国民支援共闘はオリパラ組織委員会が入っているトリトンスクエア前で宣伝を行い80名が参加しました。昨年1月と3月に続き3回目の宣伝行動です。各支援団体、当該労組、争議団の代表は、国際労働基準を守らず、差別を放置し、解雇争議を解決しないJALは「調達コード」に違反しているとして、橋本聖子組織委員会会長に対して、公式スポンサーに相応しい対応をするよう指導することを求めました。組織委員会は、参画する企業行動を「調達コード」に照らしてチェックし指導する立場にあります。

全労連 清岡副議長

JALはオリパラのオフィシャルパートナー企業ですが、その資格要件には「人権・労働問題にも配慮した大会運営を行う」とある。オリンピック憲章ではフェアプレーはもとより、男女差別や人種差別など、あらゆる差別の禁止を謳っている。また、組織委員会が定めた「調達コード」では、オフィシャルパートナー企業などに「結社の自由・団体交渉権の承認」、「差別の撤廃」等、ILOの中核的労働基準の遵守を求めている。そのことからJALはILOの勧告を遵守し、一日も早くこの争議を解決することが求められている。

組織委員会とJALの当該労組との面談が4月20日実施されることになった。組織委員会は私たちの仲間の声を真摯に受け止め、JALに対する指導を行って頂きたい。

婦団連 伍副会長

今世界中でジェンダー平等は当たり前になっている。オリンピック憲章でもジェンダー平等を謳っている。オリパラスponsorであるJALは、今こそ解雇争議の全面解決をすべき。JALが解雇問題をどう解決するか、世界中、日本中が注目している。オリパラ開催前に解決し、女性が輝くジェンダー平等の企業としてのJALが実現することを求める。組織委員会の皆さん、私たちの声に耳を傾けて下さい。

支える会 柚木事務局長

オリパラの公式スポンサーであるJALは、ILOとの協定を守り争議を解決すべき。組織委員会からの強力な要請が必要である。昨年末コロナ禍で活動できない争議団へのカンパを募ったところ、短時間で200万円が集まった。争議の解決を求める声である。経営が解決すると言ってから3年が経過。女性が働き続けられるよう闘ってきた女性たちが解雇された。気持ちよくオリパラが行われるためにも、JALに決断するよう指導して頂きたい。

かながわ連絡会 米山さん

JAL の労働組合は、事故を契機に会社に対して安全運航でものを言って来た。女性の CA が先頭に立ってやってきた。JAL は安全より利益を優先する為に、労働組合の弱体化を狙って 165 名の解雇を強行した。オリパラ組織委員会は、ILO の勧告にも従わず、女性の声を圧殺し組合潰しをしている JAL の実態をよく見て、公式スポンサーの JAL に速やかに争議を解決するように提言して下さい。

フィリピントヨタ労組を支える会

トヨタの現地法人では、2001 年に民主的労働組合が作られると、会社が妨害し 237 名の組合員を解雇した。ILO は、団結権侵害だとして、職場に戻るか金銭で解決するよう勧告を出している。トヨタは人間らしい働き方を掲げ、オリパラのトップスポンサーになっている。トヨタは不当なことをやっているのだから、組織委員会は指導してほしい。

大田区労協 小林さん

組織委員会に JAL 争議の解決のための力を貸して頂きたい。差別のないフェアなオリパラが成功するのかが問われている。オリンピック憲章の言葉だけでなく、お祝いできるオリパラになるよう進めたいのであれば、組織委員会は不当な差別、労組への敵視、経験豊富な乗務員の解雇など調達コードからも外れている JAL と会い、スポンサーに相応しい行動をとるよう対応してほしい。

全労協全国一般南部 中島委員長

解雇された客室乗務員は女性労働の先駆者である。JAL は女性差別、組合差別、年齢差別、差別の温床。安全運航を訴えてきた人達をわきまえない人として解雇した。組織委員会の理事は 4 割が女性で、時代の最先端をいつている。組織委員会がこれまでの恥を払拭させるためにも JAL 争議を解決するしかない。

東京地評 久保さん



JAL は公式スポンサーの資格がないのではないかと。解雇された人は一人も乗務員に戻っていない。年齢と病歴を理由にベテランを狙い撃ちにした解雇。ILO は解雇した人から職場に戻すよう勧告で言っている。組織委員会はオリパラを支える企業がどんな企業か知って頂きたい。JAL は国会議員のヒアリングにも答えない。争議の解決を政治的にも、組織委員会からもすすめてほしい。

国民救援会 金高さん

今 JAL の現場からは「コロナで将来が不安だ」という声が出されている。現場は、10 年前 JAL が行った解雇があるから経営を信用していない。それでも人員不足の中、安全運航のために必死になっている。コロナを理由にした雇用不安をなくしてほしい、安全運航のための整備やグランドスタッフをきちんと揃えてほしい、これは JAL の現場の声です。争議を一刻も早く解決することを心から訴えます。

キャビンクルーユニオン 前田執行委員

JAL は組織委員会が策定した「調達コード」に明記された「労働に関する国際的な労働基準」ILO87 号条約、98 条約、166 号勧告を一貫して無視してきた。オリンピック東京大会の公式スポンサーとして、この「調達コード」を遵守しなければならない。コロナ感染拡大により昨年 5 月から延期されていた組織委員会との面談が、4 月 20 日に実現することとなった。日航乗員組合とキャビンクルーユニオンは、面談で JAL が早期解決するよう指導を求めたい。



客乗原告 内田団長

昨年 11/26 の文科委員会で、共産党の山添議員の JAL の解雇問題についての質問に、橋本大臣は「労働に関しても、国際労働基準の遵守・尊重を始め、9 つの事項について基準が定められている。調達コードの実効性を担保するための方法、規定というのは、これから事案が発生した際には組織委員会において適切に対応するものと考えており、しっかりと対応しなければいけないと思う」と答弁した。その後、橋本大臣は組織委員会の会長になった。オフィシャルパートナーにふさわしい日本航空になるためにも、1 日も早く解雇争議を解決するようにと、橋本会長に指導して頂きたい。

乗員原告 山口団長

組織委員会が ILO と国際労働基準の遵守をスポンサーやサプライヤーに求める確認書を結んだことは画期的であるが、JAL の争議は未だに解決していない。オリンピック精神やスポーツマンシップはフェアプレーでルールを守ること。しかし、JAL は反則行為ばかりでスポーツマンシップにも反している。かつて JAL は不当労働行為のデパートと言われてきたが、現在でも全く変わっていない。組織委員会がオリパラを成功させることは、スポンサーやサプライヤーに対して、国際労働基準を守らせることでもある。橋本会長には、しっかりと JAL を指導して貰いたい。